

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	サイバーレジリエンス構成学 (門林 雄基 (教授))		
学籍番号	2111143	提出日	令和 5年 1月 18日
学生氏名	瀬古 巽		
論文題目	CISOの能力習得のための経営・技術の両面を意識したサイバーセキュリティ演習のコンテンツに関する研究		
<p>要旨</p> <p>日々多様化・複雑化するサイバー攻撃には全社的な対応が求められるが、従来のセキュリティ担当者では権限と責任が不足し、経営や事業内容に係る意思決定を行えない。そのため、経営層とセキュリティ部門との橋渡し役を担うポストとして、CISO (Chief Information Security Officer) が昨今設置されるようになった。ところが、組織横断的な能力を有したCISOに適する人材は、経営サイドと技術サイドが二極化する従来の企業形態からは生まれにくい。それゆえに、諸外国と比較しても、国内におけるCISOの設置率は著しく低い現状である。現状に鑑みて、CISOに任命できるようなセキュリティ人材の量的・質的な不足の補填が喫緊の課題であり、セキュリティ人材の育成を目的とした様々なサイバーセキュリティ演習が提案されている。しかし、既存の演習の多くは技術に偏重しており、経営的な視座を与えられる内容ではない。CISOは他のCxOと同様に経営・事業的役割を担う必要があるから、既存の演習ではCISOに求められる能力の習得は難しい。また、CISOは情報セキュリティを統括する責任者としてセキュリティへの感度を高く保つ必要があるが、既存の演習は対象を動機付ける視点に欠け、この点にも人材育成上の課題がある。よって本稿では、CISOに求められる能力習得のための経営・技術の両面を意識したサイバーセキュリティ演習を提案する。この際、対象を動機付けられるよう、効果的な教育プログラムの作成を可能とするインストラクショナル・デザインの手法に則る。提案する演習は複数のシナリオ型演習で構成され、CISOの持つ経営・事業的役割と技術的役割の両面を疑似体験できるように設計されている。演習の評価については、演習対象を動機付けられた程度と知識・スキルの習得度合いの測定に加えて、CISOやCISOに準じた役職者に対する指導経験のある専門家からのピアレビューにより行った。評価結果から、提案演習が対象を動機付けられる内容であり、CISOに求められる能力を習得させる上で有用である点を示した。</p>			